

作業の省力化に繋がるクリーム色のスイートピー新品種 「ムジカクリーム」

田村 瑞紗

宮崎県総合農業試験場 花き部

1. はじめに

スイートピーは、多彩な花色と柔らかな花弁、そして芳香を持ち、冬から春にかけて花束やアレンジメントに切り花が利用されている。国内におけるスイートピーの切り花営利栽培は、本県をはじめ、岡山県、兵庫県、神奈川県などの冬期晴天日の多い太平洋沿岸および瀬戸内地方で盛んである。

宮崎県は、国内スイートピー産出量の約5割を生産する国内1位の生産地で、100品種以上が栽培されている。宮崎県総合農業試験場では、1989年（平成元年）に品種育成を開始し、主に交雑育種法を用いて、これまでに23品種を育成してきた。当初は県独自の新規花色を追求し、宮崎県を代表する花弁が複色の春咲き性品種「式部三姉妹」を育成するとともに、作業性の観点から、巻きひげがなく作業省力性に優れる「ムジカシリーズ」や、品質向上の観点から、通常の品種より日持ちが1.5～2倍優れる良日持ち性品種の育成を行ってきた。

今回は、巻きひげがなく作業省力性に優れる「ムジカシリーズ」の新品種として、2021年に「ムジカクリーム」を育成したので紹介する。

2. 育成経過

「ムジカクリーム」は、2010年春に宮崎県総合農業試験場において、花色がクリーム色で巻きひげを有する「ステラ」を子房親に、花色がピンク色で巻きひげがない「エンゼルキッス」を花粉親として交配を行った。その後、後代において自殖と選抜を繰り返し、F₈世代で固定した。

2018年～2019年に生産者ほ場での適応性試験を行ったところ、その能力および適性も優れていたため、2021年に登録出願し、2021年11月29日に出願公表されている（出願番号35556番）。

3. 品種の特性

「ムジカクリーム」の花色はクリーム色であるが、これまでに育成された「ムジカシリーズ」には、出荷の主力となる白色およびクリーム色がなかった。このため、本品種に対する産地からのニーズは高く、また本品種は染色が可能であることから、1品種で多様な花色を出荷することができる（写真1）。

主な特性を表1に示した。対照品種として親品種である「ステラ」および「ムジカシリーズ」のうち、県内でもっとも栽培されている花色がラベンダー色の「ムジカラベンダー」を用いた。草型は高性、節間長は長、花形はウェーブ、花径は中である。旗弁および翼弁の中央部の花色はともに黄白（日本園芸標準色票（JHSチャート）No.2902）で、1花房当たりの花数は4～5輪、開花習性は春咲き性である。

9月上旬に播種する作型で、28日間の種子冷蔵を行った場合、10月中旬に発^{はつらい}蕾し、11月下旬から収穫可能となる。切り花本数は1株当たり37本、出荷本数は23本であり、営利栽培向け品種として十分な収量である。対照品種よりも花柄長およびステム長が長く、着輪数も安定していることから、出荷における上位規格を満たしやすい（表2）。

表1 「ムジカクリーム」と基準品種の主な特性

品 種	ムジカクリーム	ステラ	ムジカラベンダー
草 型	高性	高性	中間
節間長	長	長	中
巻きひげの有無	なし	あり	なし
花 形	ウェーブ	オープン	ウェーブ
花 径	中	中	中
花 色	旗弁 (JHS) (2902)	淡黄 (2503)	明紫 (8604)
	翼弁 (JHS) (2902)	淡黄 (2503)	浅青味紫 (8303)
花柄の長さ	中	中	中
一花房当たりの花数	4～5輪	4～5輪	4～5輪
開花習性	春咲き性	春咲き性	春咲き性

表2 「ムジカクリーム」と基準品種の1株当たり収量および切り花形質

品種名	株当たり切り花本数(本/株)		切り花形質			
	切り花本数	うち出荷 ¹⁾ 本数	花柄長(cm)	ステム長(cm) ²⁾	着輪数(個) ³⁾	開花輪数(個) ⁴⁾
ムジカクリーム	37.8±1.7 ⁵⁾	23.0±1.9	47.2±4.6	35.7±3.6	4.3±0.3	3.2±0.2
ステラ	35.8±2.2	24.0±2.7	38.5±3.2 ^w	32.0±2.8	3.3±0.3	2.6±0.2
ムジカラベンダー	32.9±3.0	25.1±5.4	44.5±4.8	33.2±3.2	4.3±0.4	3.8±0.4

注 1) 落蕾が無く第1小花までの花柄長が20cm以上、小花数3以上の花

2) 第1小花までの花柄長 3) 着輪した花蕾数 4) 開花した小花数 5) 平均値±標準偏差

4. 作業性

スイートピー栽培に必要な労力は、7月からの定植前のハウス準備から4月の収穫終了と6月の採種までの期間に1,000㎡当たり概算で3,875時間とされている(宮崎県農業経営指針, 2020)。内訳は収穫調整が約4割(1,573時間)、つる下ろし作業が約2割(842時間)、巻きひげとり・腋芽^{えきが}かき・誘引作業が約2割(832時間)であり、このうち巻きひげ取りの割合が全体の約1割となっている。

本県育成の「ムジカシリーズ」は、巻きひげが複葉となることから、巻きひげを取る必要がなく、全体の約1割の時間が省力できる(写真2)。

このことから、「ムジカシリーズ」は雇用型経営を行う農家のもとより、家族経営を行う農家でも導入され、2021年に宮崎県内で延べ70aが作付けされているが、花色が主力のクリーム色である「ムジカクリーム」の普及により、さらなる作付拡大が期待される。

5. 品種名

本品種を含め、宮崎県総合農業試験場で育成した品種は、栽培地域を宮崎県内に限定しており、県のオリジナル品種として国内市場および海外へも出荷されている。

そこで、本県が育成したスイートピーは、県にゆかりのある品種名を付け、宮崎県育成品種としての差別化と本県ブランドのPRを行っている。

本県は「刈り干し切り唄」など民謡の宝庫として知られ、国際音楽祭が毎年開催される都市であることから、ラテン語で「音楽」の意味がある「ムジカ」をシリーズ名に採用しており、本品種は、花色がクリーム色であることから「ムジカクリーム」とした。



写真1 「ムジカクリーム」



写真2 一般的な品種の葉と巻きひげ(左)および「ムジカシリーズ」の葉と複葉(右)

6. おわりに

これまで宮崎県総合農業試験場では、花色の市場性、巻きひげのない省力性、良日持ち性などの、1つの優れた形質を有する品種育成を行ってきた。

今後は、これらの形質に加え、難落蕾性^{らくらい}や耐暑性などの優良形質を複数有する品種育成を目標に、選抜に取り組んでいく。

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂5805

(たむら みずさ)